

'88新春座談会

いよ、木に本気 暮らしに活かそう木の良さを

「北見・オホーツク **木の家**」を語る



最近内需拡大の動きから、住宅着工量も前年に比べて大幅な伸びを示しています。しかし、大工さん等の技術者不足から受注してもなかなか着工にかけられないとか、その間の建築資材の高騰から建築費が受注金額を上回ってしまい苦慮している工務店もあるとか、新聞紙上で伝えられています。

木材の需要でやはり大きなウエートを占めるのは住宅部門です。住宅を木で建ててもらい、またその中で多くの木材を効果的に使ってもらおうというのを旨としたモデル住宅の建設が、木材需要拡大運動の一環として、本道では、札幌、旭川に続いて北見でも行われました。

ウッディエイジ新春座談会としてこれで3回目になりますが、「木の家」を巡る話題をお届けしたいと思います。

今回集まっていたいたのは以下の方々です（敬称略・順不同）。

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 北見地方木材協会専務理事 | <input type="checkbox"/> 倉本産業(株)常務取締役建設部長 |
| 山 本 統 | 菅 野 英 彦 |
| <input type="checkbox"/> 施主 | <input type="checkbox"/> 網走支庁林務課林産係長 |
| 牧 野 宏 昭 | 山 内 健 司 |
| <input type="checkbox"/> 司会 林産試験場副場長 | <input type="checkbox"/> 記録 林産試験場木材部主任研究員 |
| 高 橋 弘 行 | 北 村 維 朗 |

司会 今日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。札幌、旭川に続き北見でも木の家が建てられました。札幌の場合は全額国の予算を使い、完全に展示用ということで、材料の使い方もかなり思い切った物でした。また旭川では、分譲が前提でしたが、出来上がった物はかなり豪華なもので、高価なことからなかなか買手がつかなかったと聞いております。

しかし北見のケースは、あらかじめ販売価格帯を設定し、建て主さんも決まっていたということで、新しい形となりました。

今日はこの「オホーツク木の家」の建設にかかわられた4人の方々から、ザックバラなお話を伺いたいと思います。

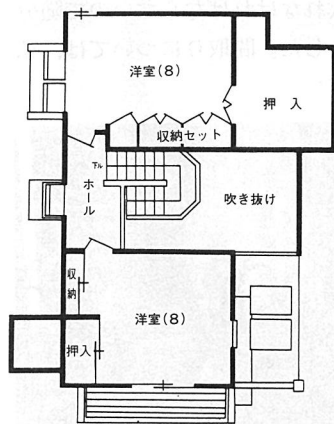
まずこの事業の中心的存在としてご活躍になった北見地方木協の山本さんに、この「木の家」の青写真が出来るまでの経緯から口火を切っていただきたいと思います。

「オホーツク木の家」は スタンダードタイプ

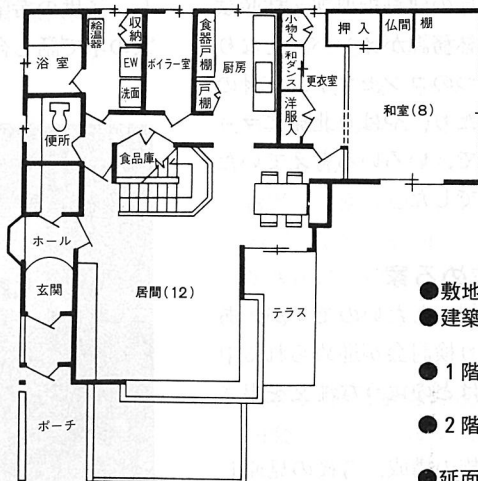
山本 最近北見・網走管内で営林支局の公宅が木造で建てられました。ここでは例えば構造材に5寸角を用いるというように木をふんだんに用いたものでしたが、建設費はかなり高くなってしまいました。木材の需要拡大を考えますと、まず皆さんに木造住宅をたくさん建てていただく、そのためには価格的にも皆さんの望まれる物の中でいかに木を効果的に使っていただくかということが大切なのではないのでしょうか。「オホーツク木の



「オホーツク木の家」の全景
多くの見学者が訪れた



二階平面図



一階平面図

- 敷地面積……………346.50㎡
- 建築面積……………100.35㎡
(30.97坪)
- 1階床面積……………89.44㎡
(27.60坪)
- 2階床面積……………43.72㎡
(13.49坪)
- 延面積……………133.16㎡
(41.09坪)



山本さん

家」の計画にあたっては、この点に一番気づかいをいたしました。

司会 山内さんにお伺いしますが裏方的存在としてこの事業を進めるのあたり、いろいろとご苦労があったと思うのですが……。

山内 木材需要拡大の一環として、道の方から北見に北国型モデル住宅を建ててくれという話がありまして、早速その事業主体として北見地方木協のほうへお願いしました。旭川でのやり方を基本にするということで準備を進めましたが、まず、北見の建築士協会に設計施工等お願いしようとしたのですが、同協会では大きなビルやマンション以外の木造住宅をあまり手がけたことがないということで断られてしまいました。幸い、北見木協の会員の中に建築をやっている会社が数社あり、そちらにお願いすることでなんとか軌道に乗せることができました。3社から協力の申し出がありました但最终的に設計デザイン的なことから、倉本産業さんに決定させていただいたということです。

司会 検討会を2回ほどお持ちになったそうですが、どのようなものでしたか。

山内 北見市役所、支庁の建築指導課、林産試験場、道の林産課、支庁林務課がメンバーとなりました。検討会の中で一つのコンセプト、方針のようなものを決めるにあたり、やはり北見にマッチするものをということで、いろいろ考えていただいたのが山本専務さんでした。

冬暖かく安心して住める家

司会 建て主さんにお伺いしたいのですが、ある程度コンセプトが固まり検討会が進められる中で、牧野さんのほうからはどのような注文を出されたのですか。

牧野 一番の基本は家族の構成、今後の見通しからも和洋折衷の形にならざるをえないし、北海

道の寒さを考えると暖かく、また、20年、30年と安心して住める家を希望しました。

司会 木材需要拡大の一環として、「オホーツク木の家」を建てるということから、使われる材料も目新しい物があるこ

となどについては良く承知なさっていましたか。

牧野 外壁にはカラマツセメントボードが使われるということをお聞きしたとき、無論そのようなものがあるとは知りませんでしたし、木造住宅も随分変わったなあというのが感想でした。昔は、木造住宅の外壁といえばモルタルと相場が決まっていたね。でも工務店さんのお話ではモルタルのように建てた後の補修もあまり考えなくとも良いらしいとのことでした。

司会 ここに来る前に牧野さんのお宅を拝見してきましたと奥さんにもお話を少し伺ったのですが、場所の選択については奥さんの強い希望があったようですが、間取り内装などについては、ご家族の皆さんとかなり相談なさったのですか。

牧野 人生のなかでそんなに何回も家を建てるということは経験できるものではありませんし、また実際、家に一番長い時間いるのは家内ですし、子供の希望も入れなければならぬので随分家の中で話し合いました。間取りについては、私



牧野さん



牧野さんお気に入りの居間の出窓は部屋のアクセント

の意見が強く反映したものになりましたが、内装というか部屋の雰囲気については家内の意見が強くでています。

設計のポイントは

家族のコミュニケーション

司会 さて、設計・建築にあられた倉本産業の菅野さん、こうした建て主さんの方からの注文にくわえて、木協のほうからは木をたくさん使うよう要求があったと思います。また当然設計者としての個性を織り込んでいきたいという意欲もあったでしょう。これは大変なお仕事でしたね。

菅野 そうですね。設計段階でポイントとなったのは階段部分の吹き抜けでした。建て主さんとの話し合いの中で集成材を使っていくということになりました。

もう一点は一階の居間にフローリングをきたいという意見が設計の時にあったのですが、床暖房を設置する関係からそれはできませんでした。

それから、階段というのはまだ一般的には玄関、中廊下を利用したものですが、建て主さんのほうから家族のコミュニケーションをはかりたい

ということから、居間に設置しました。そして吹き抜けになっていますから、開放的な雰囲気になっています。

司会 間取りはどのようになっているのですか。

菅野 一階の床面積は89.44m² (27.6坪)、二階43.72m² (13.49坪)、一・二階合計で133.16m² (41.09坪)です。具体的に申しますと、

| | |
|---------------------------|------|
| 一階が、 | |
| 和室（押し入れ・床の間付き） | 8畳 |
| 更衣室（収納壁…和洋服タンス ・物入れなど） | 4畳 |
| 台所 | 6畳 |
| ボイラー室 | 2坪弱 |
| 洗面脱衣所 | 4.5畳 |
| 浴室 | 1.5坪 |
| トイレ | 1坪強 |
| 居間 | 12畳 |
| 吹き抜け部分階段 | 2畳 |
| 同 食堂 | 4.5畳 |
| 二階が、 | |
| 階段両側に洋室2室 | 各 8畳 |
| 小屋裏 | 1.5坪 |

と、いうことになっています。

司会 吹き抜けがあることで非常に明るい感じで解放感のある造りとなっていますね。また、変わった採光になっていますね。

菅野 冬が長いし、結露と雪おろしの心配があるので屋根を思い切って急勾配にし、家の真ん中に吹き抜けを配置したことから屋根を利用した採光を考えあのような形になったのです。

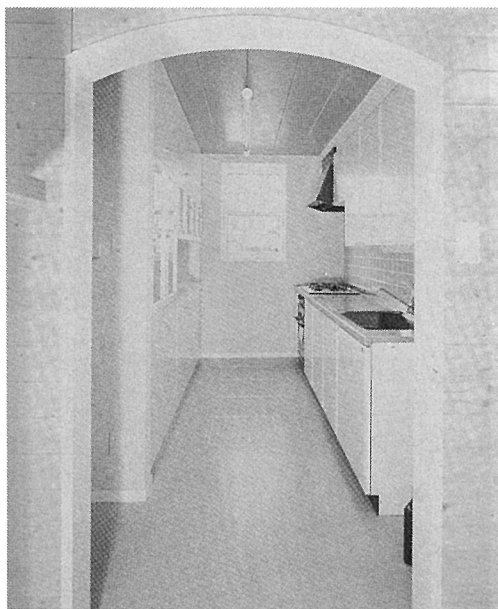
木材の使用量は坪あたり0.68・m³

司会 どのくらいの木材が使われているのですか。

菅野 一般住宅では、坪あたり0.6m³弱ですが、



菅野さん



台所の天井にカラマツセメントボードを使った

今回の設計ではその1割強増しの0.68m³を使用しています。

司会 その多くなった部分というのは内装に使った分でしょうか。

菅野 それもありますが、全体に屋根勾配を強くし、また吹き抜け部分の空間の広さから梁材を多く使ったことによると思います。あと、屋根の軒の出を普通より多く出したことも影響しています。ちょっと言い忘れておりましたが、先ほどの木材使用量には、カラマツセメントボードの木材は入っていませんので、実際にはもっとたくさん使ったことになります。

北見の特産品カラマツのセメントボード

司会 カラマツのセメントボードは施工的には問題無いのでしょうか。

菅野 普通のサイディングとなんら変わり無いと思います。

司会 山内さん、今回の木の家では外装はもとより内装材にもカラマツセメントボードが使われて

いていましたが、これには行政の方から積極的な働きかけをされたのですか。

山内 北見はカラマツの産地でもあり、北見の特色ある「木の家」を作ることから、カラマツセメントボードの使用を倉本産業さんにご協

力願った次第です。

菅野 廊下・台所の天井にカラマツセメントボードを使ったのですが、これは内装材としても雰囲気のある良いものですね。

奥様のお気に入り収納スペース

司会 出来上がった「木の家」について感想をお聞きしたいのですが、牧野さん、入居してまだ間もないのでわからない点もあるとは思いますが……。

牧野 最近少し寒くなったので床暖房をいれると暑いくらい暖かいし、こんなに開口部があって冬場大丈夫かと思うほど広く取ってあり、明るく快適です。居間の出窓は、家内ともども大変気に入っています。

それから、子供が友だちを連れてきて自分の部屋の二階へ行くときに、吹き抜けの部分のみでペンションのようだなあと言われて気を良くしていますね。

司会 その他奥さんの気に入ってらっしゃる点は……。

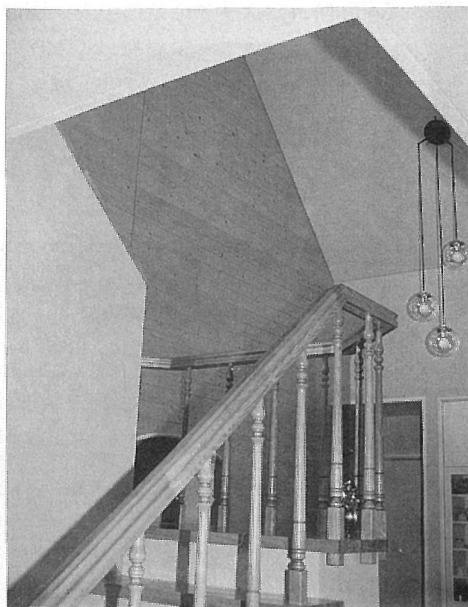
牧野 炊事場の食器収納庫をはじめ、収納ダンスとか各部屋の収納スペースが良く考えられており、物を置いたりつるしたりしなくても良いので部屋をそのままの広さで使えることが一番気に入っているようです。

司会 近年、こういった造り方は多いのですか。

菅野 いいえ、まだ一般的ではありません。これは、牧野さんからの要望でもありました。しかし、これからはこういうものが増えていくのでしょうね。そういった意味では、ちょっとだけ時代を先取りしたものになっているのかも知れませんね。



山内さん



居間にある階段を昇って二階へ、家族の触れ合いがそこに……

木材の使い方は効果的に

司会 山本さんは、ご覧になってどのような感想をお持ちでしょうか。

山本 繰り返しになりますが「木の家」を造るにあたりできるだけ木を多く使いたいというのが本音ですが、反面皆さんが建てたい、また建て得る価格であること、かつ高气密・高断熱であること、これらもろもろの要件を満たすものでなければならぬ、こういった考えで造られた家です。

我々の立場からすると、木地をもっと出したほうが良いとか、内装に木を張りたいたいとかいう思いはあるのですが、見学に来たこれから家を建てる年代層の人からはとても評判の良いものだったのです。そういうことからすると、需要拡大のためには大いに成果があったのではないかと考えています。

司会 すると、木の家をたくさん建てていただくということからすると大成功だったということですね。

山本 えー、価格的にもそれほど無理なく建てられ、見た目には木をあまり使っていないように見えながら、実は先ほど菅野さんからお話があっ

たように一般木造住宅からすれば、着実に木材の使用量が増加している、こんなことからとても良かったと思っています。

司会 菅野さん、出来上がった後の感想はいかがですか。

菅野 設計段階でかなりつめておりましたので間取的には満足しているのですが、木の家ということからすれば、やはり床にフローリングを使いたかったという点ですね。

司会 今後の課題としては、床暖が使えるようなフローリングの開発ということになりましょうか。一点だけここは気に入っているところを挙げるといわれたらどの点でしょうね。

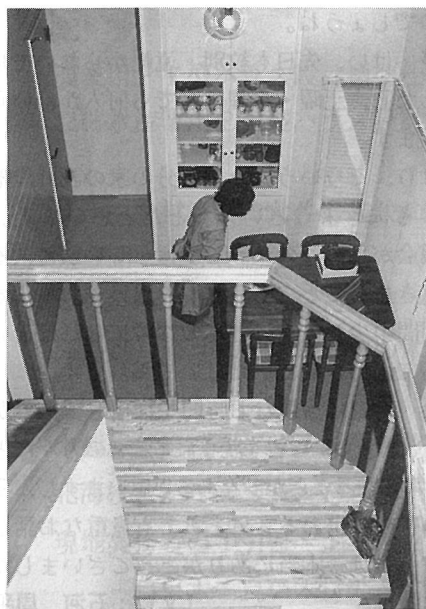
菅野 階段吹き抜け部分ですね。

牧野 天窓と出窓です。

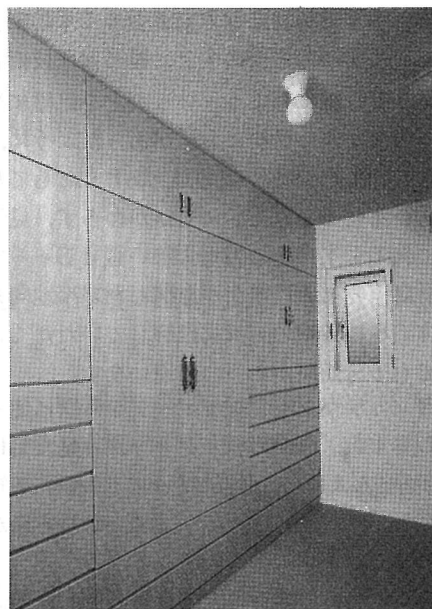
PRは大成功

司会 展示期間中何人くらいの方が訪れたのですか。

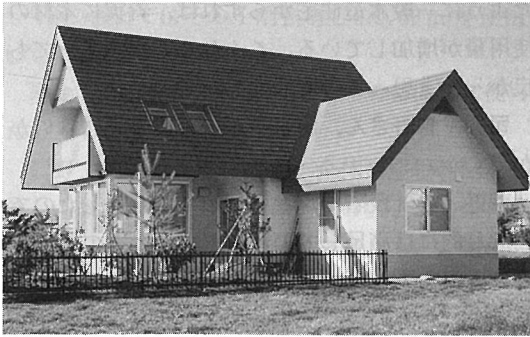
菅野 9月10日オープンということで30日までの集計結果ですが、来場者は1,321名で、最初の6日間には土・日曜、休日もあったことから、



2階からダイニングコーナーを見る



収納壁は部屋を広く使える



外壁は明るくシャレたカラマツセメントボード

1,160名が、それ以降には161名がいらっしゃいました。

司会 場所もそんなに町の真ん中でもなければ、分かりやすい所でもないのに、どのようにしてPRなされたのですか。

山本 北見のような10万都市では、2月間で5～600人くれば成功だと思っていたのですが、道新、NHK等の報道機関の協力でこんなにも人が集まりました。

山内 そのほかオホーツク木のフェスティバルの会場でPRをしたことも功を奏したと思っています。

山本 木質材料需要拡大協議会の「木の家」を進めていく一つの方針の中で、建築者・技術者の研修・研鑽の場にしようということを目指しているのですが、最初にお話があったように、北見の建築士協会に断られた経緯もあり、おもてだては言いませんでした。にもかかわらず、見学者の中に大工・工務店の方も大勢いらっちゃって、木質材料需要拡大協議会が意図した寒冷地向きの木造住宅を技術者の方々に理解していただくという面でも十分効果があったと思います。

山内 カラマツセメントボードを外壁に使っているのですが、ほかのサイディングと見た目には変わりませんよね。工務店の方々にこの製品を知ってもらうことができ、そういったことから良かったと思っています。

司会 来場者の感想はどんなものでしたか。

菅野 ほとんどの人に、外見・内装ともに気に入

入っていただけました。しかし、もう少し木を使った方が良いという意見もたくさんありました。

そのほか、吹き抜け部分の木の柔らかさが良い、全室に収納庫があるのが良い、これらは年代層を問わず見られました。また、値段については皆さんから聞かれました。

土地付き1,800万

山本 値段は土地付き1,800万円です。北見の一般の建て売り住宅の価格は、30坪くらいのもので1,400～1,500万円ぜいたくでそれに比べれば少し贅沢かなとも思われるのですが、かといって全く手の届かない価格でもない。皆が持っている、もう少しこうしたい、ああしたいという夢が形になっている、という点でも皆さんから好評をいただいたのではないかと思います。また「木の家」は41坪ですから、単価から見ても相応の値段ではないでしょうか。

司会 その後倉本産業さんのところに、こういう家を建てたいというような照会がありましたか。

菅野 これを機会に1件は建てさせてもらうことになりました。また、6件の照会がありました。

司会 展示期間中ということで今でも見学者があるのでしょうか。

牧野 はい、先日も紋別・遠軽からおいでになりましたし、土曜・日曜は今でも何人かはいらっしゃいます。

やはり、そういう人々は自分の家の設計段階にあり参考にしようということだと思います。私も、機会がありこのようなすばらしい家に入ることができましてとてもうれしく思っております。展示期間中少しでも皆さんの参考になればという気持ちで協力させていただいております。

司会 今日は貴重なお時間を拝借し、ありがとうございました。これを読まれる読者の方々にとっても参考になることが多々あると思いますし、我々木材の研究に携わる者にとっても貴重なお話しでした。今日は、本当にありがとうございました。

(文責：石河 周平)